

令和6年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
自己肯定感アップキャンプ

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

自然の中でのグループ活動を通して異学年の仲間と主体的に関わり、4年生は3年時の経験を活かしながらリーダーシップを発揮したり、3年生は自然の中での体験活動を通して自信をつけたりすることで、それぞれの自己肯定感を高める。

2. 事業の概要

（1）期日

令和6年10月24日（木）～10月25日（金）一泊二日

（2）参加者

吉備中央町立津賀小学校・円城小学校・御北小学校（3校連合）
小学校3年生23人 4年生19人 計42人

（3）企画・運営のポイント

- ① 自己肯定感は早期に手立てを打つこと、また2学年に渡って実施することでより効果が得られることを想定して、小学校3年生と4年生に設定した。
- ② 利用団体の実態に応じて過去2年間のプログラムから変更を加えた。
- ③ 今後、研修支援のパッケージ化のために、現在ある活動の中で遊びリンピックやスコアOLなど自己肯定感が上がりそうな活動を取り入れた。
- ④ 自己肯定感の変化を捉えるために、事前・事後でのアンケート調査を行う。また、活動中も自分や友達の良さを振り返る機会を多く設け、キラリシートにまとめて、視覚的に分かりやすくする。

3. 活動の内容等

（1）日程

| 10月24日（木） | | 10月25日（金） | |
|-----------|---------------------|-----------|-----------|
| 8:45 | 各小学校を出発 | 6:30 | 起床 |
| 9:45 | 入所式 | 6:45 | そうじ |
| 10:00 | 吉備アドベンチャープログラム（KAP） | 7:15 | 朝のつどい |
| 12:00 | 昼食（レストラン） | 7:30 | 朝食（レストラン） |
| 13:00 | スコアOL（荒天：館内OL・KAP） | 9:00 | 野外炊事 |
| 16:00 | 遊びリンピック | 9:30 | （自主点検表提出） |
| 17:15 | 夕べのつどい | 13:00 | 振り返り |
| 17:30 | 夕食（レストラン） | 14:00 | 退所式 |
| 18:30 | キャンプファイヤー | 15:00 | 各小学校に到着 |
| 20:30 | 入浴 | | |
| 21:30 | 就寝 | | |

(2) 活動の状況



【KAP】



【スコアOL】



【遊びリンピック①】



【遊びリンピック②】



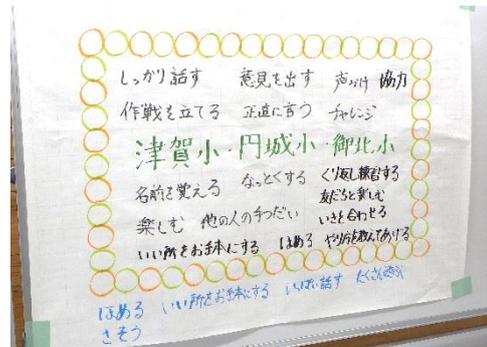
【キャンプファイヤー】



【野外炊事】



【振り返り】



【振り返り(キラリシート)】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

①児童

- ア) みんなから自分の良いところを聞いて自分の良いところはたくさんあったことに気付いた。(3年生)
- イ) 4年生が引っ張ってくれてかっこよかったので、私もそんな4年生になりたい。(3年生)
- ウ) 初めてリーダーとなって不安だったけど、みんながほめてくれたので自信になった。(4年生)
- エ) 3年生の時に4年生に引っ張ってもらったから、今年は4年生として3年生を引っ張ることができたから、3年生の時の経験が活かされた。(4年生)

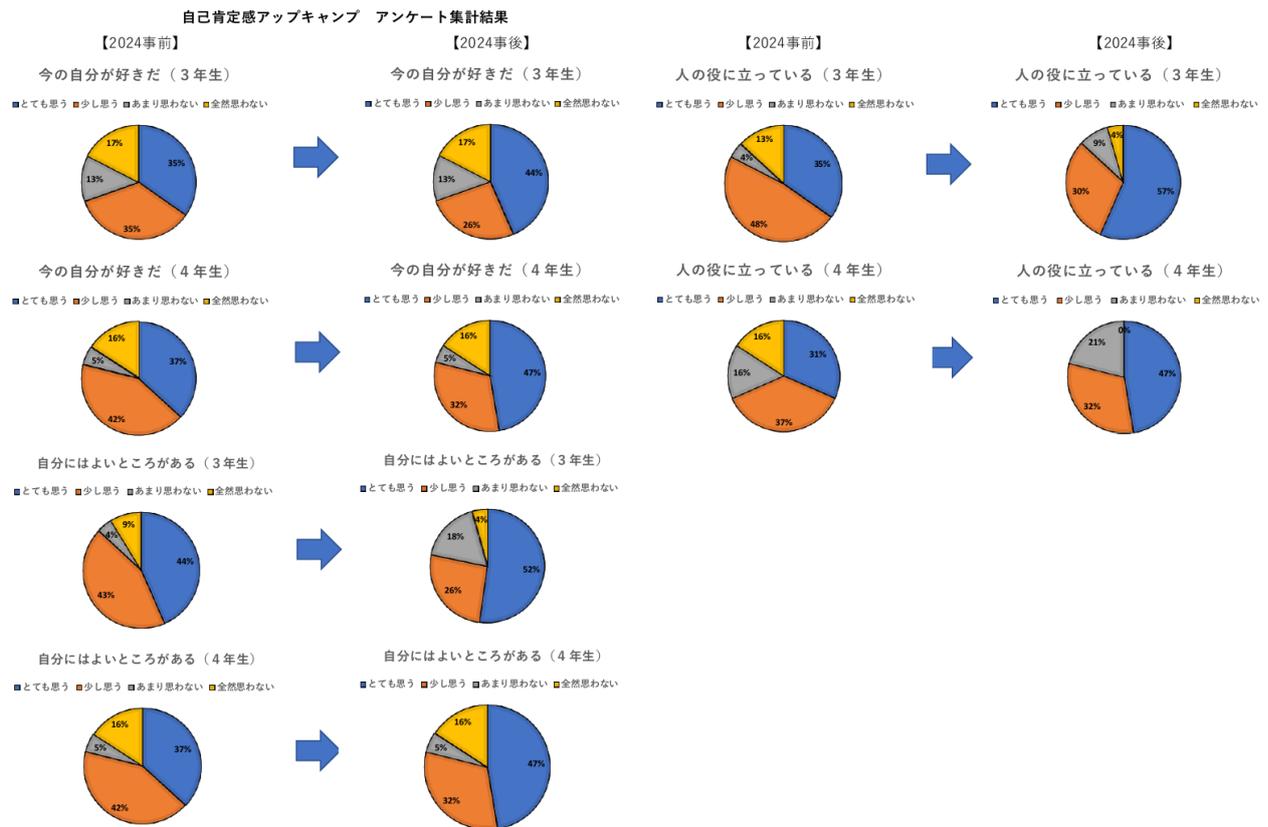
②教員

- ア) 2日間、自己肯定感アップを目的としたプログラムを行うことで子供たちも充実した活動を行うことができた。
- イ) 子供主体で進めていくことで、子供の力がかなりついたような気がする。
- ウ) 学校ではなかなか見えにくい子供たちの良さを最大限に引き出していただいたように思う。
- エ) 振り返りの中であった友達と協力することやてきぱきと行動することなどを学校生活でも活かしていけるように指導していきたい。

(3) 成果



※経年…4年生の3年時(昨年度)の事前と4年時(今年度)の事後を比較したもの。



- ① 全体を通して、自己肯定感の伸びが見られた。特に、「人の役に立っている」項目について事前と事後で大きな伸びが見られた。
- ② 4年生については、昨年度の事前と比べてもあまり変化は見られなかったが、事前アンケートを見ると思春期に入る時期で自己肯定感が下がってきていたが、事業を通して自己肯定感の高まりが見られた。
- ③ 事業として3年目となり、学校の教員も流れを理解して、スムーズに行うことができた。
- ④ 来年度、自己肯定感アップキャンプのノウハウを生かした宿泊学習を計画されたので、成果が見られた。

(4) 今後の課題

- ① オリエンテーリングの地図が難しかったので、写真を挿れるなど見やすくなるよう検討する。
- ② KAPをよりよくするために、引率者への対応やアクティビティの組み立て方など所内で研修を重ねていく。

担当：企画指導専門職 藤本 昌克